

全国建設発生土リサイクル協会（JASRA、東京都千代田区・赤坂泰子理事長の主催による第3回「土サミット」が21日、災害と土をテーマに都内のホテルで開かれた。土に携わる各業界団体や企業、行政など全国から約180人が参加し、それぞれの垣根を越えて、土の現状と未来を考えた。学生によるワークショップや学識者によるパネル

ディスカッションも行われた。サミットは午前10時から約7時間にわたり、5つのプログラムで構成された。同協会が策定した「JASRAビジョン2050」を

## 「災害と土」テーマに——未来を考える

赤坂理事長は開会に当たり「土の現状とこれからのことを目的としている。災害時の土の取り扱いと課題を紹介する。有意義な時間で発表した。内容は、建設発生土リサイクルのあるべき姿を提示するとともに、2050年までに「質を重視した魅力ある建設発生土リサイクル業の確立を目指す」ことを目標に定めている。この中で、目標達成に向けた取り組みや第一次5か年計画を決めている。今回のテーマである「災害と土」については、勝見

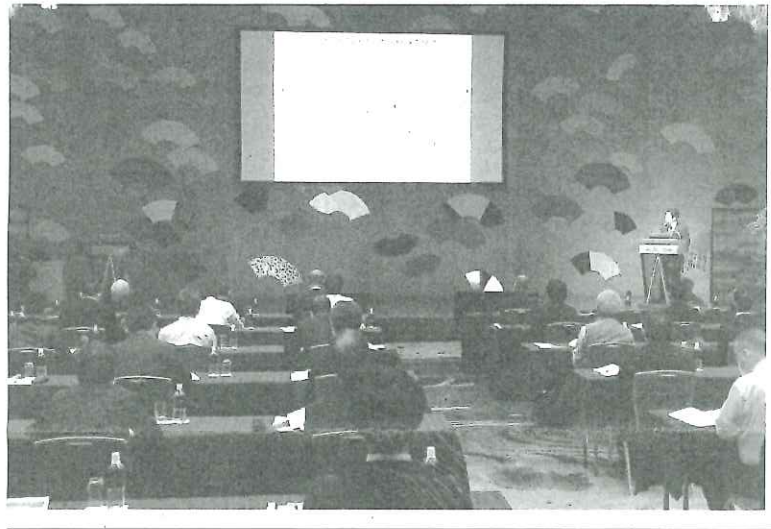
を過ごしてほしい」とあいさつした。来賓の佐藤寿延国土交通省技術審議官は「建設発生土の取り組みを公共と民間が一体となって進めていくことが必要であり、引き続き協力願いたい」と、引き続き協力願った。佐藤審議官は「建設発生土の取り組みを公共と民間が一体となって進めていくことが必要であり、引き続き協力願いたい」と、引き続き協力願った。佐藤審議官は「建設発生土の取り組みを公共と民間が一体となって進めていくことが必要であり、引き続き協力願いたい」と、引き続き協力願った。



赤坂理事長

全国建設発生土リサイクル協会

# 土サミット 開催



団体や企業、行政などが垣根を越えて建設発生土の未来を話し合った「土サミット」

土サミットは、土に携わる各業界団体や企業をはじめ、国・自治体、学識者、専門家らが集まり、垣根を越えた情報交換の場として2年前から開催されている。注目を集めている。

静岡県熱海市で発生した大規模な土石流災害を教訓に、法整備や省令改正がなされるなど、土に関する状況が大きく変化していることが